農北

第71回通常総会を開催

R3暦年 農業機械出荷調査

総出荷額は217億円（1％減）

（一社）北海道農業機械工業会（満永敬哉会長）は19日、第71回通常総会並びに表彰式をANAクラウンプラザホテル札幌で行った。今回はコロナ禍に鑑みて総会についてはリモートを含めたハイブリット開催となった。

総会では、令和3暦年度農業機械出荷調査結果を公表し、正会員の総出荷額は約217億円（前年度比99％）で、自社生産出荷台数は前年比113％で金額ベースでは約99％と微減。函館税関レポートでは海外からの農機の輸入額は378・2億円と前年比17％増で回復基調（ピークは2019年の406・9億円）。EU製品は86％強を占めると報告。今週5月25～27日にタイのバンコク国際貿易展示場（BITEC）で開催のアグリテクニカアジア2022への4社㈱エフ・イー、オサダ農機㈱、訓子府機械工業㈱、旭川機械工業㈱の出展や北海道農作業安全運動推進本部と連携しての農作業安全運動に関する研修会の支援を行う他、ISOBUS普及推進会と共に会員の能力とISOBUS認証環境の向上の支援、（一社）北海道機械工業会と連携しての企業求人情報の資料作成への参画なども行うとした。

満永会長

また従業員功労者表彰ではIHIアグリテックの石本和重氏と弓場公彦氏、中村茂樹氏と本田農機工業㈱の菅頭葵氏、オサダ農機㈱の大柿弘幸氏、㈱エフ・イーの阿部知之氏が表彰された。

また永年会員表彰では、会員歴50年の㈱北海道クボタと日農機㈱、㈱キセキ北海道、三菱農機販売㈱北海道支社、ヤンマーアグリジャパン北海道支社。また30年の㈱タカキタ北海道統括室。24年のサンエイ工業㈱が表彰された。

一方、優良農業機械・施設等表彰も行われ、北海道知事賞並びに北海道農業機械工業会会長賞として日本甜菜製糖㈱紙筒事業部のチェーンポット式野菜移植機ひっぱりくん動力ユニットHPD－2Gが受賞した。

表彰式では日本甜菜製糖㈱の寺澤秀和紙筒事業部長が感謝の言葉として「ひっぱりくんは北海道で開発された移植機で、白ネギ栽培の過半数で使用されている。10年前から欧米に輸出し葉菜で使用され、現在では有機栽培への展開を模索している。本日の受賞を契機に、北海道・日本・世界農業発展に向けて更なる努力をしたい」と述べた。

また北海道経済部産業振興局の田邊弘一局長が来賓祝辞として「ひっぱりくん動力ユニットは農作業の省力化や効率化への効果が高く小規模多品目の野菜作経営の発展に大きく寄与し、我が国の農業発展に大きく貢献するもので時宜を得た開発といる」と述べた。

永年会員には会員歴50年の北海道クボタ㈱渡辺社長㊤や日農機製工㈱西原社長㊦らが表彰された

優良農機・施設等表彰ではニッテンのひっぱりくん動力ユニットが知事賞に選ばれ、寺澤紙筒事業部長が授与した

山地災害防止CP 6月30日まで

林野庁は都道県、各市町村とともに6月30日まで令和4年度山地災害防止キャンペーンを行っている。（一社）日本治山治水協会協賛。

日本では毎年2千カ所以上で台風、豪雨、地すべり災害など山地災害が発生し、多くの被害を出している。最近では令和2年が2035カ所・8000億円、同3年が1417カ所・449億円など。

今年度のキャンペーンでは、山地災害危険地区など、山地災害の発生のおそれのある箇所を地域住民に知ってもらう講習会、研修会、説明会や見学会などを開催するほか、山地災害パトロール、保安林の巡視、広報活動を行っていく。

農林省

農薬危害防止運動始まる

安全・適正な使用など啓発

農林水産省は、農薬を使用する機会が増える6月から8月にかけて、厚生労働省、環境省と共同で、農薬の使用に伴う事故・被害を防止するため、農薬の安全かつ適正な使用や保管管理、環境への影響に配慮した農薬の使用等を推進する「農薬危害防止運動」を始める。

今年の運動のテーマは「農薬は　周りに配慮し正しく使用」。①農薬及びその取り扱いに関する正しい知識の普及啓発②農薬による事故を防止するための指導③農薬の適正使用等についての指導④農薬の適正販売についての指導⑤有用生物や水質への影響低減のための関係者の連携―を中心に実施する。

近年継続して農薬の使用に伴う事故・被害などが発生していることから重点指導項目としては、▽農薬ラベルによる使用基準の確認と使用履歴の記帳の徹底▽土壌くん蒸剤を使用した後の適切な管理の徹底▽住宅地等で農薬を使用する際の周辺への配慮及び飛散防止対策の徹底▽誤飲を防ぐため、施錠された場所に保管するなど、保管管理の徹底―となる。

なお、今年度の運動は新型コロナウイルス感染症の拡大防止に十分配慮しながら、密閉空間、密集場所、密接場面を避けて実施していく。

啓発ポスター

山地災害防止CP 6月30日まで

日農工

第61回従業員功労表彰

31人21社を決定

（一社）日本農業機械工業会（木股昌俊会長）はこのほど、第61回従業員功労表彰の受賞者を発表した。3月7日に開かれた第162回理事会で決定したもので、製造部門7人、研究・開発部門3人、管理・営業部門21人の計31人21社を選定。

表彰式は、5月31日に開催を予定する第59回定時総会、第164回理事会後に行われる。

受賞者は次のとおり（敬称略）。

【製造部門】

▽齋藤政史＝金子農機㈱生産部次長（副参事）▽山下政弘＝㈱神崎高級工機製作所生産部専任部長▽角原仁＝小橋工業㈱第2耕うん爪製造部部長▽柳平文夫＝㈱ササキコーポレーション生産本部原価企画部チーフエンジニア▽滝口隆明＝㈱太陽製造部生産管理課資材購買係専門課長▽清水章＝㈱丸山製作所品質ものづくり統括部生産技術課▽庄司光一＝㈱山本製作所製造部生産技術グループ

【研究・開発部門】

▽有吉映明＝アグリテクノサーチ㈱技術責任者▽大河原悟＝三陽機器㈱技術部執行役員技術部長▽石川智明＝㈱本田技術研究所ソリューションセンター品質室第1BLチーフエンジニア

【管理・営業部門】

▽山下強志＝㈱アテックス品質保証部部長▽三浦義則＝有光工業㈱GHC東部営業部東北営業所▽大塚雄二㈱＝IHIアグリテック営業部農機グループ熊本営業所副所長▽木下弘幸＝同・農機グループ主査兼千歳営業所長▽髙倉知温＝キャニコム国内事業line副本部長兼営業企画推進部部長▽鈴木保彦＝静岡製機㈱産機営業部次長▽敦賀真由美＝同・海外営業部海外業務課課長▽高橋仁史＝㈱タイガーカワシマ農機営業部部長▽小原弘和＝㈱太陽総務部総務課課長▽髙田和男＝同・物流部中部物流センター課長▽上杉弘治＝㈱タカキタ営業本部本州営業部南九州営業所所長▽小泉一昭＝同・北海道営業部札幌営業所専任課長▽仲川哲幸＝同・北海道営業部北見営業所所長▽樋口良彦＝㈱ニコン・トリンブル農業システム営業部▽森繁久＝ハスクバーナ・ゼノア㈱営業本部東京支店東京支店長▽河内慎一郎＝㈱ホンダパワープロダクツジャパン営業部サービス企画課▽上野哲嗣＝松山㈱営業部営業技術課課長▽高橋哲夫＝同・製造部工務課課長▽浅野茂＝㈱丸山製作所国内営業本部関東甲信越支店▽西原祐平＝やまびこジャパン㈱九州支社福岡支店▽清水明＝㈱山本製作所営業技術サービス部東日本サービスセンター（関東）

生産16・6％増

3月生産出荷実績

日農工

（一社）日本農業機械工業会は令和4年3月分の農業機械生産出荷実績（経済産業省生産動態統計）をまとめ、公表した。

3月の生産は496億2500万円で前年同月比16・6％増、生産の1～3月の累計は1205億200万円で同5・6％増。3月の出荷は468億7700万円で同9・4％増、出荷の1～3月の累計は1164億2800万円で同11・6％増だった。

変な顔

筆者は、埼玉県の田舎から東京の神田まで、車で通勤をしている。自分で運転をしている。

夜運転していると、対向車や後から来る車のヘッドライトがよく見える。そして最近つくづく思うのであるが、とても変な顔である。特に、ヘッドライトの目の形は、何か残忍な怪物のようである。また、大きなワゴン車などは全体にものすごく威圧的で、大威張りしている顔に見える。どうしてこのような顔つきに自動車はなってしまったのだろうか。非常に不思議であるし、いろいろ考えてもわからない。

現在は車社会である。毎日車を見ている。車の顔を見ているのである。その顔が残虐で怪物的な顔になってしまっているのであるから、これは大変大きな影響を社会に与えるのではないかと心配している。特に、幼い子どもたちに、である。そのように残虐でひどい顔つきの自動車を毎日見ていれば、子供たちの心も曲がってしまうのではないか、と筆者は恐れている。

これらの自動車の顔について書かれたものを、あまり私は読んだことがない。このように感じるのは私だけだろうか。多分きっと、もの言わぬ多くの人々が、そのように思っているに違いない。

自動車のデザイナーはそんなことを感じないのだろうか。非常に不思議である。メーカーの代表者やデザイナーはよく考えて、人間の心が安らぐような面影を持っている車にしてほしい。特にライトのデザインが重要である。

（よしすけ）

関談忙話（1356）